

一人ひとりを生かす学習指導の工夫
——「くらしのなかの水（４年）」の指導を通して——

糸満市立光洋小学校教諭 仲 里 孝

目 次

I 研究テーマ設定の理由	11
II 研究仮説	11
III 研究構想図	12
IV 研究内容	12
1 一人ひとりを生かすとは	12
2 一人ひとりを生かすための指導の工夫	12
V 授業実践	14
1 単元名	14
2 単元設定の理由	14
3 単元の指導目標	14
4 観点別指導目標	14
5 単元の指導計画と配当時間	15
6 授業の考察	17
VI 研究の成果と今後の課題	20

一人ひとりを生かす学習指導の工夫 ——「くらしのなかの水（４年）」の指導を通して——

糸満市立光洋小学校教諭 仲 里 孝

I 研究テーマ設定の理由

中教審において「一人ひとりの個性をかけがえのないものとして尊重し、その伸長を図ること」とうたわれている。つまり、児童一人ひとりを生かすことが大事であると考ええる。そこで、教師は児童個々の特性を十分に把握し、個性に合った学習活動が展開できるようにしなければならない。しかし、これまでの自分の授業実践を振り返ってみると教師が知識や技能を一方的に教え込み、児童が受け身の授業になっていた。一斉に画一的な授業になりがちで、個性に合った学習活動を展開することができなかった。従って児童のなかには意欲的に学習に取り組めず充実感や成就感を味わえない子もいた。調べ学習をすると興味や関心のある程度喚起することはできても、個々を生かした指導が十分にできなかった。さらに単元の終末における学習では、調べた事実や事象を整理するだけで終わっていた傾向も見られた。

上記の課題を解決するためには、まず魅力ある教材を開発し教師が支援する過程において児童の思考力判断力、表現力がより効果的に生かされる教材であることが前提となってくる。次に体験的な学習活動を組み入れた学習展開を図ることを工夫した。体験的な学習活動は学習意欲を持たせ、主体的な学習の仕方を身に付けさせるとともに、個性的な学習をするなかで学ぶことの楽しさや成就感を体得させるのに有効である。今回の実践では、一日に使う水の使用量調べ、水道の関連施設の見学等である。最後に、調べた内容を相手に分かってもらうために教師が多様な表現方法を紹介することにした。グループのメンバーの特性を生かし、役割を分担して個々のよさを生かした活動を展開させるよう配慮する。発表する際には、資料等から得た知識を自分の言葉でまとめさせる。従って、これまでの学習活動の内容や方法を振り返り学習の成果について確認し合うとともに、調べたことから社会的事象の意味について自分なりに考えることができるようになると考える。上記の体験的な学習活動と表現活動を効果的に生かすために、本実践では、問題解決的な学習を授業実践に取り入れた。そのようなことによって、児童が自ら問題を見つけ、自分なりに考えたり、判断したり、あるいは体験したり表現したりしながら生き生きと学習に取り組むようになると考える。

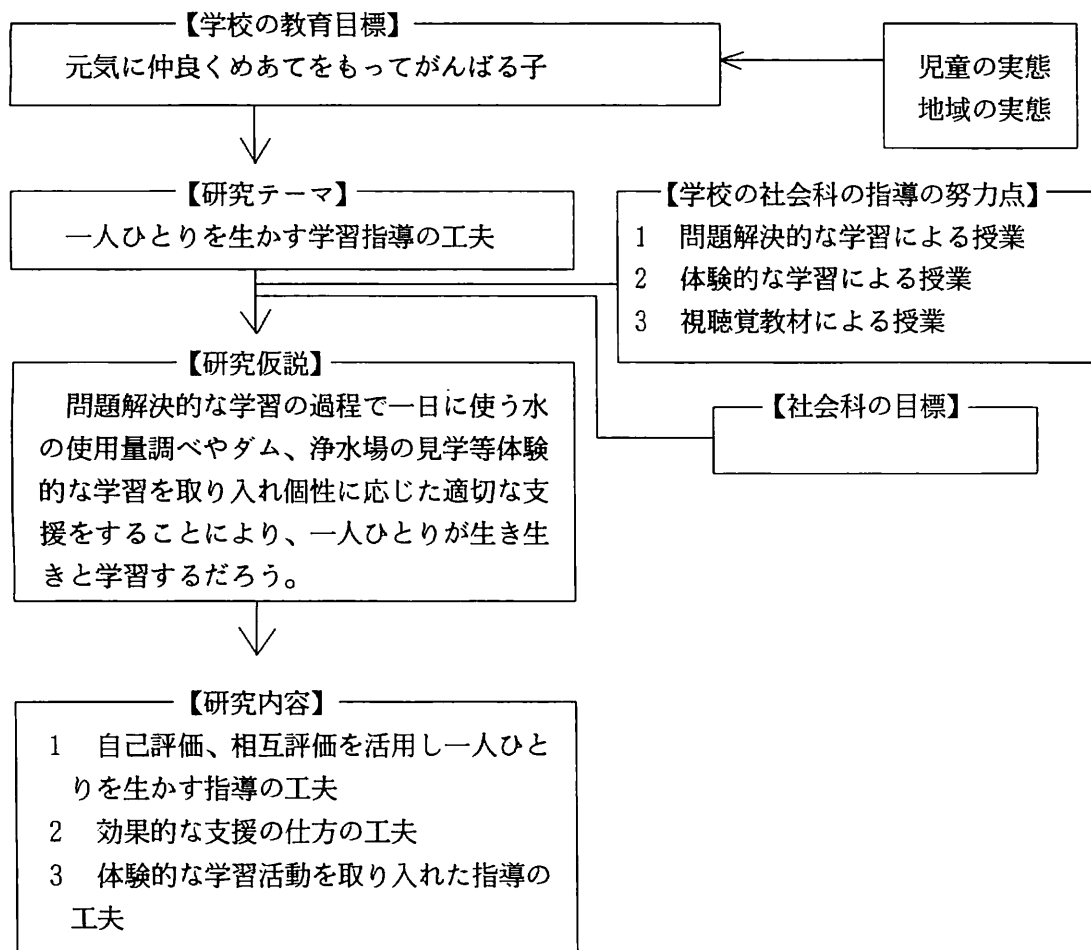
単元「くらしのなかの水」は、私たちの生活と密接に関わっている水を取り上げ、地域での観察や見学、作業的学習が容易である。次に観察力、表現力、資料活用力、社会的思考力、判断力等の能力の育成を効果的に行うことができる教材である。しかし、本学級の児童の実態は、毎日使用している水についてその水が「どこから」「どのようにして」自分の家や学校にまで届くのか、ほとんど知らない。また、水道の関連施設でどんな人たちが働いているのか知らないと思われるので気づかせていきたい。そして、水は作られるものであること、社会に住む私たちが水とどう付き合っていくのか社会と自然との関係に目を向けさせたいと考えている。

以上のような理由で本テーマを設定した。

II 研究仮説

問題解決的な学習の過程で一日に使う水の使用量調べやダム、浄水場の見学等体験的な学習を取り入れ個性に応じた適切な支援をすることにより、一人ひとりが生き生きと学習するだろう。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 研究内容

1 一人ひとりを生かすとは

一人ひとりを生かすとは、一人ひとりの児童の存在を大切にし、その特性を生かすことと、とらえている。つまり児童が自分自身の意志判断により進んで学習に参加することだと考える。意欲をもった子は自ら疑問を解明したい内面的な気持ちが高まり「調べてみたい」という衝動に駆り立てられ、解決された喜びによって新たな疑問解決に向かっていくようになる。

要するに学習を終えて「楽しかった」「今度はこんなことをやりたい」との思いを抱いたとき児童のよさや可能性が伸び一人ひとりを生かしたと言える。

2 一人ひとりを生かすための指導の工夫

(1) 自己評価の活用

自己評価をすることにより、自らの生活や学習の目標を明確にもつことができる。自己評価する場合は自分の学習の目標にどれだけ近づいたか、これからの学習をいかにすべきかを考える機会となる。それは児童自身によって学習のめあてが設定され、その児童なりの規準によってチェックするという作用が学習意欲を高める働きをしているからである。

従って、自己評価は児童自身が学習への動機づけや意欲を育てていく上で、重要な手段の一つである。また、児童の学習意欲の変容をとらえるためのものとして活用することも大切である。

(北 俊夫、「子どもの成長を支援する評価」 1996)

以上のことから一人ひとりを生かすための手立てとして自己評価を活用することにした。自己評価には、児童が自分で学習を振り返ることにより毎時間の学習状況を確認でき、教師も児童一人ひとりの学習の様子を把握することができる利点がある。そのことによって、児童が学習への動機づけや意欲を高めることができ、教師は個性に応じた適切な支援をすることができると思う。

(2) 相互評価の活用

相互評価について、北 俊夫は「相互評価は、児童が相互にそれぞれの規準に従って評価し合うものである。児童は友達からの評価によって、より客観的に自己を見つめ、意欲を一層喚起させよとする意志が働く。」と述べている。このような相互評価を今回の実践では調べた内容を発表する段階で実施することにした。そのことによって児童のよさ、可能性を見つけさせ学習に対して意欲が高まると考える。

(3) 効果的な支援の仕方の工夫

高以良教諭は「児童が願いを持つ段階、願いを実現する段階、ふりかえる段階に分けて」支援の仕方を工夫している。学習過程に沿って個に応じて適切な支援をすれば、児童は自分の学習の方向を見いだしていくことができるようになる。そのことによって児童が学習の成就感を味わったり、意欲を高めたりするようになると思う。今回の実践では、高以良教諭の実践例を参考にし一人ひとりを生かすために支援の仕方を工夫した。まず、児童の学習意欲がわくように授業の導入で三種類の水を見せた。さらに一日に使用する水の量を調べさせた。

次に、本校の図書館には調べ学習をするのに必要な本や資料の数が少ないので、関連施設から多くの資料を譲り受けた。これを児童がいつでも活用できるように図書館や教室に置いておく。また教材用のビデオテープも準備し活用できるようにした。さらに、糸満市の水道局に児童が電話で質問できるようにお願いした。また、学級便りを使い、保護者に一日に使う水の量調べ、ダムと海水淡水化施設の見学の引率のお願いをした。

最後に、活動が停滞している児童に対して励ましをする、教師が共に活動する、友達と共に活動させる、活動のヒントを与える等を支援した。

(4) 体験的な学習活動を取り入れた指導の工夫

社会科の学習の場に体験的な学習活動を取り入れると児童一人ひとりが自分の取り柄や持ち味などの個性を発揮しながら学習活動に主体的に取り組むようになると思われる。すなわち児童のよさや可能性を生かし自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの資質や能力の育成を図ることができるようになると思う。今回の実践では、体験的な学習活動を次のような場面で取り入れることができると思う。

一つめは、学習問題を見つける段階である。児童が実際に体験的な学習活動に取り組む中からさまざまな疑問や感想などを出し合ったり、不十分さや問題点等に気づいたりしながら自分の問題を見だしこれからの学習の内容や方向を決めていくことができるようになると思う。

二つめは学習問題を実際に解決していく段階において体験的な学習活動を通して新たな社会的事象に接し、事実の認識を深めたり自分の思いや気持ちを発揮する。さらにさまざまな人間の願いや生き方を学んだりしながら自分の疑問や予想が確かめられ、学習問題の解決を図っていくことができるようになると思う。

三つめは学習のまとめをする段階において体験的な学習活動を位置付けることができる。ここでの体験的な学習活動は学習問題を追究し、明らかになったことをまとめたり確認したりすることを主なねらいとしている。体験を通して学習のねらいとしているものを自分なりに最終的に獲得し、定着を図ることができるようになる。そのようなことによって、児童が学習に対する楽しさや成就感、わかる喜びを味わうようになると思う。

V 授業実践

1 単元名 暮らしのなかの水

2 単元設定の理由

4学年の社会科では「地域社会における人々の健康や安全を守るための諸活動、地域の地形や産業などの様子及び地域の発展に貢献した先人の働きを理解できるようにし、地域社会の成員として地域社会の発展を願う態度を育てる」ことを目標としている。

この単元は系統的に「地域の人々の健康な生活を保つための活動」を教材として取り上げている。健康な生活の維持と向上に役立っている対策や事業はいろいろあり、この単元では「暮らしのなかの水」について学習する。

ここでは身近な自分の生活と水との関係を調べ水道経路や関連施設で働く人々と出会うことによって水は作られるものであることに気づかせる。また社会に住む私たちが水とどうつき合っていくのか等、社会と自然との関係に目を向けることをねらいとしている。

事前のアンケートから次のようなことが分かった。水道の水がどこからくるのか知っている児童が17人でダムからくると答えている。しかし水がダムからどのようにして家までくるのか知っている児童は一人もいなかった。次に13人の児童は使用した汚れた水が下水道から海や川にいくと答えているが校区に下水処理場があることを知っている児童は5人しかいなかった。

さらに、これまで社会科の学習で児童全員が調べたことを新聞にしてまとめていた。他の方法でまとめて発表した児童はいなかった。よって教師は表現方法にもいろいろあることを知らせ、選択の幅を持たせることにした。

授業に入る導入の段階や指導過程の中で児童の興味・関心を引き付ける工夫、一人ひとりの願いや思いを大切にす教師の姿勢こそが重要である。それによって児童一人ひとりが生き生きと学習に参加するものとする。本学習を通して水道経路だけでなく、その関連施設で働く人々の工夫や苦勞についても気づかせたい。

3 単元の指導目標

- (1) 一日に使う水の量調べの活動を通して、水は自分たちの暮らしに欠かせないものであることに気づき、水がどこから送られてくるのかを理解することができるようにする。
- (2) 浄水場・ダム・水源林・下水処理場などのしくみと働きの大切さに気づき、その関連施設で働く人々の工夫や努力について理解することができるようにする。また、自分たちの暮らしと水の再利用について見直すことができるようにする。

4 観点別指導目標

- (1) 社会的事象への関心・意欲・態度
○毎日の生活で使われる水に注目し、水がどれくらい使われているか関心を持つ。
- (2) 観察・資料活用の技能・表現
○学習問題にそって、調べ学習や体験学習から得た情報をもとに自分の考えをまとめ発表することができる。
- (3) 社会的な思考・判断
○水は自分たちの暮らしに欠かせないものであることに気づくことができる。
○浄水場、ダム、下水処理場等の施設や人々の働きを考えることができる。
- (4) 社会的事象についての知識・理解
○水がどこから送られてくるのか理解することができる。
○自分たちの暮らしと水の再利用について見直すことができる。

5 単元の指導計画と配当時間（14時間扱い）

次	時	主な学習活動と内容	教師の支援・評価 ◎支援	☆評価の観点 □評価方法
つかむ	1	①「嘉手志川の水」「学校の水道の水」「市販のミネラルウォーター」の水当てクイズをする。 ②休日を利用して、親と一日に使う水の量を量る計画を立てる。また、ワークシートを用いて調べる項目や方法などを話し合う	全体への対応 ◎水の量り方を具体的に数個の容器を見せ説明する。 ☆発表（関・意・態） ◎一日の水の使用量の予想を立てさせる。 親子共同作業にして、家の人に協力してもらう。	個への対応
	2	①家で調べた一日の水の使用量を発表する。 ②作業を通して分かったこと、感じたこと、疑問に思ったことを発表する。 ③実際に一日に使う水の量をポリバケツにためることによって実感する。 ④感想を発表する。	◎全員が感想や疑問を持ち発表できるようにする。 ☆発表（関・意・態） □ワークシート	
立てる	3	「わたしたちの水」について学習計画を立てる。 ①自分が調べたい学習問題を決めて発表する。 ・水はダムからどんなふうに運ばれて、水道の蛇口を回すと簡単に出るのか。 ・水道の歴史について ・糸満市で一日に使う水の量は？ ②調べ方を考える。 ・ダムに行く ・本で調べる ・副読本で調べる	☆感想や疑問から自分なりの学習問題を作ることができるか。（思・判） □ワークシート ◎学習問題に対して自分なりの予想を立て、それをもとに解決までの計画を立てさせる	○学習のねらいから問題がそれないように机間指導をする。 ○困っている子には例をあげ、調べてみたいことを自分の言葉で書かせる。
追究する	4	自分で決めた学習問題を追究する。 ①自分で決めたテーマについて副読本や図書資料から調べる。 ②関連施設に直接出掛けたり、電話で取材をする。	☆自主的に資料等を使い丸写しをするのではなく、自分の考えも書くことができるか。（思・判） □観察 ◎児童の追究したい学習問題にそって、学校や各ダムのガイドブック、専門機関発行の資料コーナーを設置	○多くの資料を使って情報を収集させる。 ○本や資料と一緒に探したり、更に発展するための助言をする。 ○本や資料だけでなく、専門機関の人からも取材できるように情報をアドバイスする。
	5	③調べたことを発表するため、	◎児童の特性が生かせるよう	

		記録をまとめたり、図表や紙芝居等を作成する。	に数種類の表現方法を紹介する。	
まとめ	6 7 8	自分が調べたことを発表する。 ①まとめたことを発表する。 ・ダムの働き、海水淡水化 ②発表を聞きながらメモをとり ③気がついたこと、質問等話し合う。	☆意欲的に発表会に参加しているか。(関・意・態) (思・判) ◎質疑応答の中で確かな答えが出ない場合は、結論を急ぐのではなく今後の調べ学習に発展させる。	☐ 発表チェックカード
追究する	9 10	浄水場を見学しこれまで各自が追究してきたことを確かめる。	◎質問する事項が重複しないように内容を精選 ☆浄水場のしくみについて理解できたか	☐ ミニ新聞
つかむ	11	わたしたちが使って汚れた水はどこに行くのだろう。 ①使った後の水はどうなるのか予想を立て、発表する。 ②「通学路と家にマンホールはいくつあるのか」調べる。 ③汚れた水はどこに集められるのかまとめる。	◎家で一日に使う水の使用量調べをしたことを想起させ、使ったあとの水のゆくえを考えさせる。 ☆使ったあとの水がどうなるのか予想することができる。 (思・判) ◎宿題で調べさせる。 ◎安全について確認する。	
追究する	12	汚れた水はどのようにしてきれいになるのだろう。 ○教科書やパンフレットを利用して下水処理場の仕組みを調べる。	◎下水処理場も浄水場と同じように多くの人々の働きがあることをおさえる。 ☆下水処理場の仕組みを理解することができる。(知・理)	○理解しにくい用語の説明をする。
	13	下水処理場できれいになった水は使えないのかな。 ①下水処理場できれいになった水の再利用について考えを発表する。 ②教科書や下水処理場のパンフレット等で処理水や汚泥の再利用の実態を調べてノートにまとめる。	☆水の再利用について自分の考えを持つことができる。 (思・判)	○副読本を参照させる。

まとめる	14 下水の学習をしてきて分かったことや考えたことを多様な方法で発表する。 「下水処理や水の再利用」について自分の考え、感想、調べたことをまとめる。 下水の学習をしてきて、分かったことを新聞や紙芝居、ポスターなどにまとめるにはどんな工夫をしたらよいか話し合う。	☆意欲的に発表会に参加しているか。(関・意・態) ◎他の児童のよさを認めることができるようにする。	☐発表チェックカード
------	---	---	--

6 授業の考察

(1) 自己評価の考察

児童の社会科における関心・意欲、判断力、技能・表現力を総合的に判断し上・下位の抽出児を決めた。

資料 1 自己評価カード

☆学習ふりかえりカード
4年2組 5番 名前(Aさん)

○今日の勉強をはんせいして、当てはまるもの1つに○をつけてください。
3...よくは 2...やや 1...あまり

自分の考えを発表したか

3	2	1	0	1	2	3
①	2	1	0	1	2	3

おもしろかったか 友達のことを聞いたか

もっと調べたいことや、ぎもんがあったか

今日の学習で新しくわかったことは何ですか
「ふいす」

感想を書いて下さい。
「かみしばいを作ったので楽しかった。」

① 上位のAさん

水がダムから家までくる経路を調べていたが、実際にダムに見学に行ったときは案内の人に積極的に質問していた。さらに、調べたことを楽しんで紙芝居にまとめていた。またグループの中では中心になり他の児童に紙芝居の作り方を教えていた。上の資料には新しく分かったことを書いていないが児童の意欲が高まるように、振り返りカードを他の児童に見せ賞賛するなど活用の仕方を工夫する必要がある。

(2) 相互評価の考察

相互評価させる手立てとして発表チェックカードを活用させた。Dさんは、1グループが調べたことを絵で表したことに感心しているようである。また、3グループが調べたことの苦勞を感じている。この発表チェックカードを次時の授業でクラスの児童皆に紹介し、賞賛すると1グループと3グループの児童は、満足な表情で喜んでいた。相互評価させたことにより児童のよさを見つけさせることができ、成就感を味わわせるようになることが分かった。

資料 2 自己評価カード

☆学習ふりかえりカード
4年2組 5番 名前(Cさん)

○今日の勉強をはんせいして、当てはまるもの1つに○をつけてください。
3...よくは 2...やや 1...あまり

自分の考えを発表したか

3	2	1	0	1	2	3
3	2	1	0	1	2	3

おもしろかったか 友達のことを聞いたか

もっと調べたいことや、ぎもんがあったか

今日の学習で新しくわかったことは何ですか
「かみしばいのこと」

感想を書いて下さい。
「かみしばいを作ったので楽しかった。」

② 下位のCさん

調べたことを楽しく紙芝居にまとめていたが上の資料から分かるように、紙芝居の作り方をほとんど知らなかった。そこで教師がグループの友達から紙芝居の作り方を習うように声をかけたら、次時の授業では友達から習いながら自分の分担の作業を一生懸命していた。このように、教師は児童の学習状況を把握するために振り返りカードを活用し、児童の学習状況をより具体的に把握することが分かった。

資料1 相互評価カード

発表チェックカード

◆各グループの発表を聞いて、グループでふんたんにして当てる場所に○をつけ、感想や質問、ごめんを書きましょう。

4年2組 D組

発表	声の大きさ	内容がよくわかったか	資料をうまく使っていたか	感想・質問・ごめん
1グループ	よい	よい	よい	声が大きくて水が溢るまでのことをくわしく糸をきいてたのびやか、ななと思ひ
2グループ	ふつう	ふつう	ふつう	
3グループ	がんばってほしい	がんばってほしい	がんばってほしい	
4グループ	よい	よい	よい	ダムからしょう水漏れまで水の流る所を書いたのび、とてもくわしく調べたんだなと思ひます。
5グループ	ふつう	ふつう	ふつう	
6グループ	がんばってほしい	がんばってほしい	がんばってほしい	
7グループ	よい	よい	よい	
8グループ	ふつう	ふつう	ふつう	
9グループ	がんばってほしい	がんばってほしい	がんばってほしい	

(3) 各段階における具体的な指導と児童の変容と考察

今回の実践では学習の流れを三つに分けて児童の変容を見ることにした。

児童（上位・中位・下位）への手立てと児童の変容の1例 ◇学習状況 ★教師の支援
〈問題をつかむ〉 〈問題を調べる〉 〈まとめ〉

上位の児童

◇ 適切な学習問題（水はどのようにして家までくるのか）を早い時間に作る。
★ ほめてあげ学習計画を立てさせた。

→

◇ ダム、海水淡水化施設に行き、そこでもらったパンフレットをみんなに紹介していた
★ みんなの前で賞賛してあげた。

→

◇ 調べたことを大きい紙にまとめ、写真やパンフレットの切り抜き等も貼り工夫していた。
★ グループの代表として発表してもらった。

中位の児童

◇ 学習問題は作ったが適切な学習問題になっていない。
★ 自分で調べることができる学習問題になっているかどうか、もう一度確認させた。

→

◇ 調べる方法が分からず、調べ学習が進んでいない。
★ 水道局の人に電話で聞いてみたらと助言したら、放課後電話で聞いていた。

→

◇ 調べたことをクイズにし、工夫していた。
★ みんなの前で賞賛してあげた。

下位の児童

◇ 学習問題を作れない
★ 自分が調べたいことを書くように助言し、グループで教え合わせながら作らせた。

→

◇ グループの人と調べ学習ができない。
★ グループで調べるようにと助言したら、一緒に活動できた。

→

◇ まとめ方がわからず困っていた。
★ 文にしてまとめるのが苦手だったら、絵で表してもいいよと助言したら放課後も残り仕上げた。

上位の児童は、これまで自主的に発表するのは少なかったが今回の実践で調べたことをグループの代表として発表してから大きな自信になったようである。その後の授業でも積極的に発表していたので効果的な支援だったと考える。中位の児童は、問題を調べる段階で調べる方法が分からず、ゆきずまっていたが、水道局の方から電話で聞くことにより調べ学習が進んでいった。そのことによって支

援の仕方は適切だったと考える。下位の児童は、調べたことをまとめるのに困っていたが絵で表すことにより次第に学習に意欲的に取り組んでいくようになった。そのことによって、児童の特性を生かしたことが分かった。

(4) 体験的な学習活動を取り入れた結果

まず、学習問題を見つける段階では一日に使う使う水が何にどれくらい使われているか家で調べさせた。さらに一日に使用した水の量を実際にポリバケツにためる作業をした。そのことによってほとんどの児童が学習問題を設定することができたので、一人ひとりを生かすことが分かった。

次に、学習問題を実際に解決していく段階においては二つのグループが実際に関連施設に見学に行った。一つのグループはダムで、もう一つのグループは海水淡水化施設であった。そのことによって児童は見学に行き分かったことを他の子にも教えてあげたり、調べたことをまとめるのに一生懸命だった。しかし、見学して分かったことを発表したときは見学に行った子が主に活発に発言をしていたので一人ひとりを生かせなかったと思われる。学級全体で関連施設に見学に行く必要がある。

最後に、学習のまとめをする段階において多様な表現活動をした。そのことによって紙芝居やクイズ等、多様な方法で発表したのて聞く側も興味を持ち聞いていた。児童の中には「次は違う方法で発表したい」と述べている意欲的な子もいた。しかし、視聴覚機器を使った発表の仕方を教えておれば、もっと表現方法の選択の幅が広がり活発な発表会になるものと考えられる。

(5) 問題解決的な学習の展開

① 「学習問題の把握」に関する指導の工夫

導入では糸満市の大里地区にある「嘉手志川の水」「学校の水道水」「市販のミネラルウォーター」の三種類で水当てクイズをして、児童が水に関心を持てるようにした。

クイズをした結果、次の成果が得られた。

ア 児童が集中してクイズに参加していた。

イ 水について自分なりの感想が持てた。

② 「学習問題の設定」に関する指導の工夫

一日に使う水の量調べから、ほとんどの児童が指導目標に沿った学習問題を設定することができたが、うまくできなかった児童には机間指導をして支援した。例えば水か水道に関わりのある問題に近付けるようにした。さらに児童に学習計画を立てさせ見通しを持たせた。

③ 「学習問題の追究」に関する指導の工夫

本学級の児童は、調べ学習をする場合グループで取り組むのに慣れていたので、今回の実践でもグループ学習を進めることにした。共通の問題を持つ児童同士でグループ編成をした。指導の工夫として本や資料を使用させる他に家庭や知り合いから情報を聞いたりして幅広く追究するように指導した。すると親戚の人から話を聞いた児童も見られた。調べ学習を苦手としていた子がグループ内のメンバーと学習を進めていくうちに理解を深め、授業終了後も「放課後

写真1 三種類の水を見る



写真2 福地ダムで宮城さんの話を聞く



残って調べたい」という意欲を示した。自分にもできたということが嬉しかったようである。

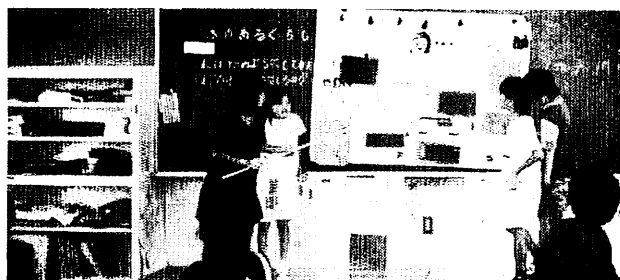
- ④ 「学習内容の発表」に関する指導の工夫
今回の実践では、多様な表現方法を紹介した。そのことによって児童は表現の仕方にも多様な方法があることを知った。

(6) アンケート結果から見た考察

表1 社会科の授業に関する意識の変化（調査人数30人）

質問事項	授業前	授業後
①社会科の授業が好きである。	35%	65%
②水について調べてみたい	25%	50%
③水道水はどこからくるのか知っている	50%	80%

写真3 クイズにして発表



本学級の児童は、これまで社会科の授業では調べ学習など意欲的に取り組んでいたようだが、事前のアンケート調査では社会科を苦手に行っている児童が多かった。今回の学習では、問題解決的な学習を組み入れ、今後も水について調べてみたいことがあると答えている児童が増えた。児童一人ひとりが課題を持ち主体的に学ぶ方法を身につけ、「自分にもここまで調べることができるのだ」と自信を持ち今後の学習にも意欲を持つものと思われる。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 一日に使う水の使用量調べを児童が親と一緒にすることにより、水についての関心が高まったことが児童の感想から確認できた。（親と一緒に体験的な学習をしたことの意義は大きい）
- (2) ダムや海水淡水化施設の見学を取り入れたら、その後の学習にも意欲をもって取り組んでいた。（児童の日記等から確認できた）
- (3) 個に応じた適切な支援をすることにより、児童に変容が見られた。

2 今後の課題

- (1) 問題解決的な学習の学び方を十分身につけさせておき、児童自らが基礎・基本を確実に身につけるようにさせること。
- (2) 問題解決的な学習や体験的な学習を場当たりのだけでなく、学習環境を整え、年間計画に位置付けておくこと。

〈主な参考文献〉

文部省	『小学校 社会 指導資料 新しい学力観に立つ社会科の学習指導の創造』	東洋館出版社	1993年
全国教育研究所連盟	『子どもの可能性を拓く学習指導と評価の実際』上下	ぎょうせい	1995年
北 俊夫	『子どもの成長を支援する評価 その12のポイント』	明治図書	1996年
藤岡完治／北俊夫	『新学力館のための評価と指導第Ⅱ巻 評価で授業を変える』	ぎょうせい	1997年